

とやま



県公連会報

第344号

令和4年7月28日
富山県公民館連合会
富山市舟橋北町7-1
富山県教育文化会館内
TEL・FAX(076)444-5777
E-mail tomico7@iaa.itkeeper.ne.jp



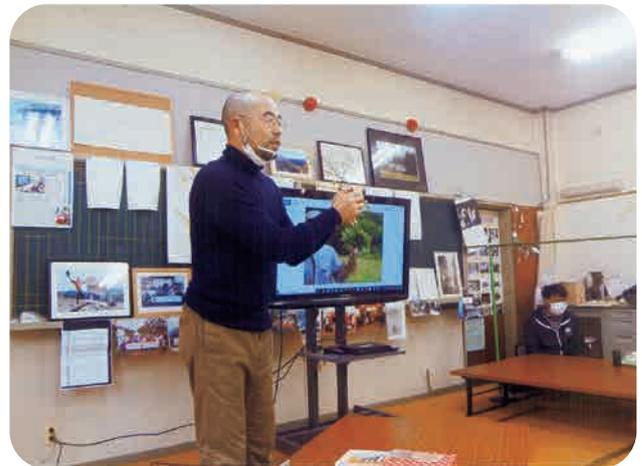
三世代交流冬の集い かまくら作り



三世代交流 ひなまつり



山菜料理教室 各種団体との交流会



山菜薬膳料理教室 薬草についての講演会

表紙写真

自然の恵を生かして

上市町立白萩南部公民館

白萩南部公民館は、上市町市街から約8km離れた山間部に位置する東種地区にあり、近くには気象観測所もあります。

山菜料理を堪能してもらう「つるぎ山菜まつり」や、巨大かまくらを中心に親子で雪あそびを楽しんでもらう「三世代冬の集い」は、地区住民や各種団体の協力のもと、30年以上継続している行事となっています。

今年度は「山菜料理教室」を計画しており、地区の活性化のため、工夫しながら自然と共に活動をしていきたいと考えています。

〈本号の主な内容〉

- 2面 ● 第16回定期評議員会
 - ・会長挨拶
 - ・本年度活動目標
- 3面 ● 初任者研修会
 - ・講演概要
 - ・委嘱公民館の発表
- 4面 ● わが町の公民館活動
 - ・小矢部市立若林公民館
 - ・黒部市立村椿公民館
- 5面 ● わが町の公民館活動
 - ・射水市堀岡コミュニティセンター
 - ・富山市三郷公民館
- 6面 ● 表彰館紹介
 - ・滑川市滑川東地区公民館

第16回 定期評議員会開催



中西 彰 会長

第16回定期評議員会は、5月20日(金)に県教育文化会館において開催された。議事に先立って中西会長から挨拶があり、「Zoomを用いたオンラインでも参加できるように準備している東海北陸公民館富山大会の運営に協力してほしい」、「年度当初の多忙が一段落した今、公民館活動の原点について考えるため、県公連発行の『公民館活動の新たなステージ』や全公連発行の『よくわかる公民館のしごと』『月間公民館』等を活用してほしい」、「コロナ禍の中でできることを創意工夫するという攻めの対策にも取り組んでほしい」の3点について話があった。

続いて来賓として出席していただいた、県教育委員会生涯学習・文化財室長吉田学氏から、「公民館では、子供たちの健やかな成長を願い、延べ14万8千人の方々ふるさと自然体験活動に取り組んでいただいております。昨年度は、『はつらつ公民館学び支援事業』活動報告書を県公民館連合会のホームページに掲載していただき、皆様の熱心な活動を広く発信することができました。今年度も県全体で112の公民館・団体と連携して取り組んでいただく予定になっております。地域の絆づくりや活性化とともに、郷土の特色を発信できるものと確信しております。」とのご挨拶があった。

令和4年度県公民館連合会役員

顧問	鹿熊 久三(富山市)
会長	中西 彰(富山市)
副会長	中村 茂信(富山市) 高井 清高(高岡市) 大野 聡一(魚津市) 塚八 栄治(南砺市) 岩坪智恵子(高岡市)
理事	山口 吉弘(富山市) 武埜 二郎(富山市) 伊藤 和雄(富山市) 蒲田 幸雄(高岡市) 岡本 昭彦(射水市) 天坂 正(氷見市) 永田 晋治(滑川市) 谷口 政芳(黒部市) 平澤 栄次(砺波市) 大沼 宗義(小矢部市) 酒井 務(立山町) 吉崎 嗣憲(入善町) 浜田 信治(魚津市) 岩田 伸弘(砺波市) 寺林 賢司(立山町)
監事	井口 淳一(滑川市) 松下 正市(氷見市) 笹原 健一(入善町)
事務局	本田 正則 木本 聡子

令和4年度活動方針

公民館は、地域の人々に最も身近な学習や交流の場として、人々の教養と生活文化の向上や福祉の充実、健康の増進、地域の安全・安心の向上等、地域社会の中で大きな役割を果たしている。しかし、近年の少子高齢化の進行や家族形態の変容などによる地域社会の絆の希薄化、制度面での変革、自然災害の多発、新型コロナウイルス感染予防をはじめ、多くの課題が顕在化し、公民館の管理・運営の柔軟な対応が求められている。

このような現状を踏まえ、我々は公民館が地域社会のかけがえのない拠り所となるよう不断に自らのあり方を見直し、今日的な役割や課題、新たな要請やニーズに対応すべく、自主的・自立的、効果的な運営に一層の工夫努力を重ねていかなければならない。

本会は、このような状況を踏まえ、地域コミュニティの向上のために、関係諸団体等との連携及び公民館相互の連携を一層密にし、地域の特性を生かした公民館活動が活発に展開されるよう努める。

令和4年度活動目標

- ・公民館の発信力を高めるとともに、地域の多様な関係団体等との連携・協働、地域の様々な人材の発掘、連携・活用等を促進する。
- ・地域の特性を生かした事業やまちづくり、防災・減災、安全・安心の地域づくり、人々の自由で主体的・創造的な学習活動の充実等を通して、地域の絆を築く取組を推進する。
- ・住民が地域に誇りと愛着をもち、青少年が地域に支えられて心身の成長を遂げられるよう、異世代交流や家族ぐるみ参加により、ふるさとの自然や歴史・文化等を、五感を通して体験的に学ぶふるさと教育活動の機会を充実する。
- ・地域の活力と住民の絆の基盤が、家庭、子供たちの成長にあることに鑑み、地域で子供たちを見守り育てる環境づくりに努める。
- ・地域のニーズを掘り起こし、多様化する要請に対応できるよう公民館職員の職務に応じ専門性を高める研修を充実して資質向上に努める。
- ・公民館施設の耐震化、バリアフリー化の推進とともに、職員の常勤配置等を関係機関に働きかける。
- ・ウイズコロナでの活動の工夫やポストコロナでの学びの在り方を学びあい、これからの公民館活動に活かしていく。
- ・大会・研修会や公民館での学びを地域へ発信したりさらに活動の輪を広げたりするなど、学びを生かす活動を推進する。

公民館運営の在り方、地域課題・住民ニーズの把握と事業企画を考える！

令和4年度 富山県公民館初任者研修会開催



激励のことばを述べる麦谷班長

6月16日(木)、公民館初任者研修会は、新型コロナウイルス感染予防のため参加者数を例年の60%に絞り、60名が参加して県教育文化会館で開催された。

開会に当たり、来賓として出席していただいた、県教育委員会生涯学習・文化財室家庭成人教育班長麦谷理香氏から、「公民館は多くの公民館職員や地域住民の努力により、住民の生活文化を向上させ、地域福祉の推進などに大いに貢献してきました。一方、公民館とは一体どういうところなのか、意外と分かっていないことが多いのではないのでしょうか。中西会長からご紹介いただいた『よくわかる公民館の仕事』や『月刊公民館』に大変分かりやすく掲載されております。基本的なことを最初から正しく理解し、身に付ければ、公民館職員として自信をもって活動に取り組んでいけるものと思われまます。また、コロナ禍において公民館を取り巻く環境も大きく変化し、デジタルを活用した新しい『交流の仕方』や『情報発信の仕方』の優れた工夫が紹介されています。本日の研修から、公民館職員としての専門性を高め、魅力ある地域づくりを力強くリードしていただきますようお願い申し上げます。」との激励の言葉があった。

引き続き研修に入り、滑川市教育センター所長松田弘人氏による「公民館活動の充実に向けて」の講演と、令和3年度研究委嘱館の発表を通して、研修を深めた。

【松田氏の講演より】

○講演要旨

1. 公民館の位置づけ
 - ・教育基本法（1、4、12条）
 - ・社会教育法（20～42条）
 - ※57条の4割が公民館関係
2. 公民館の目的
 - ・人々が、自らの力で暮らしを切り開く知恵と力を身に付ける場
3. 公民館の役割と機能
 - ①集会和活用（つどい）②学習と創造（まなぶ）③総合と調整（むすぶ）
4. 公民館事業の特色
 - ・ボトムアップの学習
 - ・学習が地域に還元されること
 - ・人を学ぶ客体ではなく、学ぶ主体にすること

最後に、富山県の現状についての様々なデータと公民館職員のメリットについて話され、公民館事業をつくる上でのヒントとエールをいただいた。



講演する松田氏

※富山県公民館連合会のホームページで、講演と実践発表の動画を配信していますのでご覧ください。

【研究委嘱館の発表より】

I 「青少年対象の活動を充実し、地域への所属感を高める活動の在り方」

砺波市立高波公民館 館長 川東 喜博氏
主事 佐藤 志穂氏

1 主題について

青少年の体験や学習の機会を充実し、健全育成とともに地域への所属感を高める活動の在り方を見直した。

2 実践事例

幼稚園が閉園したため、幼稚園が実施していた「餅つき大会」を公民館主催で実施した。

伝統行事の継承・地域と子供たちの結び付きを図る趣旨で、地区の幅広い団体、世代の協力のもとに、参加対象を0歳児から小学生まで拡大し、できるだけ多くの作業に関わってもらうことにした。

3 成果と課題

子供たちにとっては地域の中で大人と接する機会が増えることで、地域をより身近に感じるようになっていく期待感が生まれた。

子供は地域の宝であり、子供を見守る組織はたくさんあるが、今後は内容も含めて組織の再編をしていく必要があると考えている。

II 「様々な垣根をこえた対話の創造

—地域課題の解決に向けて—

射水市金山コミュニティセンター

生涯学習推進委員 松原 美砂氏

1 主題について

幅広い層の住民の対話から、地域の魅力を再発見するとともに、課題を共有して解決に一人一人が主体的に参加できるきっかけを、ワークショップを通じて創造する。

2 実践事例

研究委員を選定して、インターネット上の掲示板 Padlet を活用し、情報交換と意見交換、広報活動を行った。以下がワークショップの内容。

Part 1 未来を描く：金山の良さや課題探し

Part 2 未来を創る：課題解決の戦略を練る

Part 3 その後どうなった？さらにどうしよう？

3 成果と課題

垣根をこえた対話が生まれ、生涯学習サロン「コミュニティかふえ金山」の開催とリアル掲示板の設置が実現した。これからも対話を継続しながら、地域の歴史・文化を重んじつつ、住民が願う未来実現のために、できることから行動していきたい。



発表する川東館長



発表する松原生涯学習推進委員

子供たちは地域の宝

小矢部市立若林公民館

若林地区は小矢部市の東部に位置し、小矢部市街地と砺波市街地を結ぶ県道砺波小矢部線の間中部に位置しています。その県道と能越自動車道との交差点の近傍に若林公民館があります。典型的な農村地帯ですが、平成期に能越自動車道ができ、地区内に住宅団地ができたこと、各種事業所の転入などで、世帯数は447戸、人口は1,436人となっています。

ここでは子供たちとの交流活動を中心に報告します。公民館祭では地区在住の年長児・小6・中3生の作品を展示しています。また小中学生は公民館奉仕活動を展開し、環境整備で大いに助けてもらっています。夏の中学生公民館訪問では、地区住民が講師となった歴史学習会に中学生が参加して学んだり、中学生が地区住民に対して中学校生活についてのプレゼン発表を実践したり、地区住民と中学生が交流しています。小学4年の児童が平日に2泊3日で公民館に寝泊まりする「通学合宿」では、登下校や宿題、食事や銭湯での入浴、七夕作りを通して、助け合いやルールを守る大切さなどを学んでいます。お世話をする地域住民にとっても好評な活動です。3年度はコロナ禍

で中止しましたが、4年度は宿泊なしの通学合宿として2日間にわたって実施できました。

子供たちが参加する公民館活動を通して、大人はやはり元気がもらえます。以前のように全面再開とは言えませんが、このように公民館活動が再開し始めたことを実感し大変うれしく思っています。



スタッフと一緒に「4年度の通学合宿」

わが町の公民館活動

黒部市立村椿公民館

家庭・学校・地域を

結ぶ活動を目指して

村椿地区は、美しい黒部川に隣接し、YKK(株)本社黒部工場を取り囲むように7つの町内会があります。中でも、荒俣海岸や豊富な湧き水など自然環境にも恵まれており、人口2,742人、世帯数979世帯(令和4年5月現在)の産業と自然が共生した活力ある地区です。

(1)あいの風とやま鉄道 生地駅に七夕を飾る
「村椿小学校のみんなの思いを届けよう」

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、各行事の中止が続く中、地域住民のふれあいの場が少なくなり、七夕飾りを通して少しでも笑顔を取り戻してほしいと願いを込めて企画しました。短冊には、村椿小学校の児童全員の願いが込められたものが集まり、それが一つの七夕となってみんな



生地駅に七夕を飾る

の気持ちが繋がったように思います。七夕飾りを「生地駅」に展示したことで、駅利用者や地区住民に

も願い事を短冊に書いてもらい、人と人とのつながりを感じることができました。

(2)みその作り方や手順を地域の方から習う

「日本の食文化に触れ、世代間交流と地域の活性化を」

地区で収穫された米と大豆を用意し、地産地消で自前みそを作りました。まず、栽培に関わる地域の



みそ作り

の方々の思いを受け郷土の良さを再認識し、みそができるまでの工程を学びました。その後、学校から児童が地域の農家へ出向く、地域の方が学校へ出向き出前講座を行う、児童が公民館で地域の方とみそ作りを行うなど、学校と地域とが連携することで内容の充実を図っています。

今後も引き続き、多くの人に参加してもらいやすい工夫と改善をしながら、地域が活性化するよう取り組んでいきたいと思っています。

豊かなコミュニティづくり

射水市堀岡コミュニティセンター

堀岡地域は富山湾に面し、射水市の北部に位置し、東西2.4km、南北1.5kmの東西方向に帯状に広がっています。堀岡コミュニティセンターは新湊大橋のふもとにあり、旧堀岡小学校の跡地に建っています。

北側には今年4月に人工芝でサッカーやラグビーができる最先端のフットボールセンターができ、自然豊かなところに賑わいがやってきまし



おひさま農園

た。地域の世帯数は1,018世帯、人口は2,530人ですが時代の流れに飲まれることなく、外国籍の方や企業の方々ともお互いに連携し、住みたくなる街を目指して一致団結するパワーのある町です。

当センターでは、普段の活動として、カラオケ、民謡教室等11のサークルがあり活発に活動し、三世代交流として、おはぎづくりや七夕まつり、チャレンジランキング大会を行っています。

また、センター内に児童室があり、幼児や小学生が毎日楽しみに集まっています。指導員と季節の行事に関する工作や遊びをしたり、クッキングをしたりします。夏休みには地元の方が先生になり、子供たちの勉強をサポートする「のびのびスクール」を開きます。隣の「おひさま農園」ではさつま芋や落花生、夏野菜、大根などを作り収穫を楽しんでいます。

この地域の特徴的な活動として、外国人の子供たちを集め、言葉の勉強や授業の分からないところを教えたり、国際交流協会の方々が大人のための日本語教室を開かれたりするなど国際色豊かな時代の先端を走り、誰もが友人、仲良く豊かな社会を目指しコミュニティづくりに励んでいます。

わが町の公民館活動

富山市立三郷公民館

～ふえる笑顔と植物たち～

三郷地区は、水橋の南側に位置しており、東に白岩川、西は常願寺川、北にはあいの風とやま鉄道、南は富山地方鉄道本線に囲まれ、そのほぼ中央を東西に国道8号が走るエリアです。

三郷公民館では、登録10サークルが手芸・書道・詩吟・民謡・そば打ち・体操・ダンスを楽しみ、日々活発な活動をしておられます。公民館を訪れる方は、皆穏やかで時々持って来られる季節の花々や公民館の植物たちで笑顔や楽しい話が広がります。

中でも今年一番来館者の目を楽しませ、話題になったのが瑞々しく涼しげな「ムラサキセンダイハギ」と時計の文字盤のように見えるユニークな花が特徴の「トケイソウ」。どちらも在来種の植物ではないようですが、多くの方の注目を集め、「キレイだわあ 何ていう名前?」とか「どうやって増やすが?」とか、皆さんが興味を示され私達もそれを調べたり、頂いた方に聞いたりしてお答えしています。

この他にも公民館の一角には、ご近所の方が季

節ごとに植えて水やりのお世話までしてくださる花壇もありますし、職員が水栽培や挿し木をしている植物たちもチラホラあります。

花や緑は、手をかけて面倒をみてやる人がいないと中々維持することは難しいものですが、地域に暮らす人のつながりや活動も協力してくださる地域の皆さんの温かい気持ちがあってこそものだと思います。この公民館が、肩肘を張らず誰もが訪れやすい場所であり続け、結果として公民館が交流の場となり、親しみをもって活用し続けていただける場所であるよう努めていきたいと思っています。(人口約3,800人 約1,670世帯 23町内)



エンジェルトラネット

表彰館紹介

滑川市滑川東地区公民館

令和3年度優良公民館表彰

(文部科学大臣表彰) 受賞

「伝統行事を通して人と街の未来を育む」

滑川東地区は滑川市北部の沿岸部に位置し、市役所、ほたるいかミュージアム、あいの風とやま鉄道滑川駅などがある中心市街地で、2,248世帯、5,271人（R4.6.1）が居住しています。かつては北陸道の宿場町として栄え、現在も比較的人口の多い地区ですが、近年は少子・高齢化等により、地域活動の担い手の確保と育成が大きな課題になっています。

当地区では、毎年7月31日に「ネブタ流し」という民俗行事（国指定無形民俗文化財）があります。藁で作られた高さ5mほどの大松明を燃やして海に流し、夏の眠気や穢（けがれ）を払う行事です。海沿いの町内会の有志が中心となり、長年続けられてきた伝統行事ですが、高齢化等の理由により参加者が集まらず、参加を見送る町内も出ていました。そこで、「地元の伝統行事を守りたい」という思いで、平成24年から当公民館は、ネブタ流し保存会、地元の寺家小学校、寺家小学校育友会（PTA）等と協力して、地区住民に呼びかけて行事に参加するようになりました。

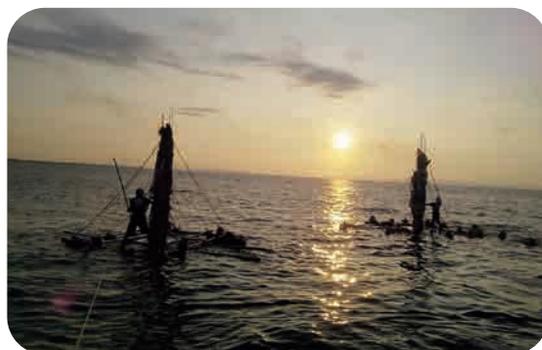
毎年7月に入ると、公民館役員とPTA、参加町内会の有志が、寺家小学校5・6年生の児童らと一緒にネブタの製作にあたります。6年生は荒縄の結び方や鎌の使い方なども教わりながら大松明本体を作り、5年生は一緒に流す形代（かたしろ：人間の身代りに罪や穢を移す人形）を折り紙で作ります。製作後児童は、指導にあたった大人たちからネブタ流しの目的や歴史、公民館で取り組む理由などを教わり、地元につながる伝統行事への理解を深めています。

ネブタ流しの当日は、希望する児童が保護者や公民館役員らと一緒に海に入り、他の児童は陸上からネブタ流しの様子を見学します。参加した児童からは「このような行事が地元にあることを誇りに思う」という感想も聞かれ、行事への参加を通じて「ふるさと滑川」への愛着が深まっていることを感じます。

近年、就職や大学進学などを機に故郷を離れた若者が地元に戻らない傾向が指摘されていますが、地域の大人との関わりや伝統行事や公民館活動に参加した経験が、子供たちの地元愛を育み、それが将来のまちづくりの原動力となってくれるのではないかと期待しています。



地元の小学生と一緒にネブタの大松明作り



富山湾の夕日を背景に幻想的なネブタ流し



燃え盛る大松明



終了後は海岸清掃ボランティア

おめでとうございます！ 受賞公民館を紹介します

◇令和4年度「県民ふるさと大賞」

・砺波市立梅檀山公民館